



平和への 想い

戦争を体験した人は
年々少なくなっています

終戦から63年が過ぎ
当たり前前に明日を迎えることができる暮らしの中で
過去に悲惨な戦争があった事実を知っていても
大多数の人は歴史上の出来事として
認識しているだけではないでしょうか

テレビや新聞などで
世界各地で戦禍に苦しむ人たちのことを知っても
かつて両親や祖父母が経験した
戦争の悲惨さと重ねることができず
平和に対する意識や思いは
次第に薄らいでいます

現在ある日本の平和と豊かさは
太平洋戦争によつて犠牲となった多くの人たちが
終戦後、復興に邁進した人たちがいたからこそ
あるのです

過去があつて、今日があることを
決して忘れてはなりません

過ちを繰り返さないために
悲惨な記憶を風化させず
平和への願いや命の尊さについて
過去から学び
そして考えてほしい…

八月十五日は終戦記念日です



吉川町の旧天然色市場に保管
艦載機グラマンの残がい
(グラマンF4Fワイルドキャット)

米軍の艦載機グラマンのエンジン(上記写真)とプロペラ(右写真)。日章飛行場を攻撃したとき撃ち落とされたといわれている。この戦闘機が襲撃にきていたということは、土佐沖に、米軍艦隊がいたという証しになります。



高知高等工業専門学校南東の物部川堤防
トーチカ

コンクリート造りの小型の防御陣地のことで、直径は約1メートル。円柱形でコンクリートの厚さは約20センチあり、内部に機関銃や観測器材などを収容し、3カ所あるのぞき穴から敵機の襲撃に備えていたようです。後ろには小さな穴があり、日章飛行場の本部まで地下道が通っていました。当時は2～3カ所トーチカがあったようですが、現在では1つだけが残されています。



南国市前浜
えんたいごう
掩体壕

航空機を空襲から守るために建設された格納庫のことで、41基が造られました。鉄筋コンクリート造りが9基建設され、その他は、竹や木などを骨組みにした造りでした。開口部は翼や機首などがすっぽり収まるように設計され、大きさも航空機に合わせて大小さまざま。大きなものは幅約45メートル、奥行き22メートル、高さは約10メートルあり、遠くからみると古墳のようです。当時は3本の滑走路から壕への誘導路が網の目のように延び、それぞれの壕を結んでいました。しかし、時代の流れとともに役目を終えた壕の大部分は取り壊され、現在では田んぼの中に取り残された鉄筋コンクリート造りの7基だけになっています。現在、掩体壕の中には、農機具などが格納されています。

戦争が残した

無言の証

負の遺産から振り返る

日本が連合軍と戦争をして
いたという物証は、戦後63年が
経った今では数少なくなつて
います。

また、高知龍馬空港周辺には、
トーチカや掩体壕がその当時
のまま姿を残しています。

私たちの身近には、このよう
に過去に戦争があったという
事実を無言で証明する貴重な
遺産があります。

残された戦争の遺産は、移り
ゆく時代の中で、この地も戦場
だったという事実を語りかけ
てくれています。

吉川町の沖合で見つかった、
米軍の艦載機グラマンのプロ
ペラとエンジンは、昭和56年12
月に海底から引き上げられま
した。戦争をもの語る貴重な遺
産として、未来に伝え、平和学
習に生かそうと保管されてい
ます。

◆平和学習に活用してください

艦載機グラマンのプロペラやエンジン
を見学するには、市役所吉川支所へ事前
に問い合わせてください。

問い合わせ 吉川支所 ☎ 55-3121

場 所 旧天然色市場
(天然色劇場の近く)